

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2721 号

A modified GnRH antagonist method in combination with letrozole, cabergoline, and GnRH antagonist for PCOS: Safe and effective ovarian stimulation to treat PCOS and prevent OHSS

多嚢胞性卵巣症候群に対してレトロゾール、カベルゴリン、GnRH アンタゴニストを併用し、卵巣過剰刺激症候群を予防でき効果的な改良型 GnRH アンタゴニスト法

柳原 康穂 (やなぎはら やすほ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)女性に体外受精を行う際の調節卵巣刺激法(COH)は、卵巣過剰刺激症候群(OHSS)予防と卵子の質を改善することを目的に改良されてきた。これまで低刺激法、in vitro maturation、腹腔鏡下卵巣多孔術など発育卵胞数を減らすことでOHSSを抑制し臨床成績改善に努めてきた。しかし、その臨床成績はまだ十分とはいえず、妊娠するまでの採卵回数が多くなる、特殊な技術が必要であるなど多くの課題が残っている。私たちは改良型のCOHで、レトロゾール、カベルゴリン、GnRHアンタゴニストを組み合わせることで、OHSSを予防しつつ、PCOS女性の持つ発育卵胞数が多くなる性質を最大限に利用することで臨床成績の向上を目指す方法を提案した。今回の研究はこの改良型のCOHの有用性を明らかにする目的で、セントマザークリニックにおける生殖医療に関する診療記録を後方視的に解析したコホート研究である。2010年から2021年の間に4種類のCOH(A群;ロングプロトコール, B群; GnRHアンタゴニスト法 HCGトリガー, C群; GnRHアンタゴニスト法 GnRHアゴニストトリガー, 改良型のCOH群)で、治療を行った175人のPCOS女性におけるART臨床成績、胚発生、ホルモンレベルを解析した。PCOS女性175例中、改良型のCOHで治療された45例で採卵47周期、胚移植75周期、従来法で治療された130例が採卵136サイクル、胚移植250周期が実施された。1回の採卵あたりの累積妊娠率は、改良型のCOHではA群より有意に高く、B群、C群より高い傾向であった(A群、B群、C群、改良型COHの1回の採卵での累積妊娠率。それぞれ40.0%、54.5%、56.3%、72.3%)。改良型COHでは、臨床的に問題となるようなOHSSは認められず、従来法よりも高い臨床成績が得られていた。この改良型COHは臨床成績を著しく向上させ、OHSSの発症予防に有効であると考えた。